

HEPTATHELA

VOL. 3, NO. 2

1987

九州 クモの会
Spider Study Group of Kyushu

目 次

- ◇ 日本のファウナに加わった数種のサラグモについて 斎 藤 博 1
On some linyphiid spiders added to the spider fauna of Japan. Hiroshi SAITO
- ◇ 熊本県のサラグモ類 入江照雄・斎藤 博 14
A list of linyphiid spiders in Kumamoto Prefecture. Teruo IRIE and Hiroshi SAITO

日本のファウナに加わった数種のサラグモについて

斎 藤 博

足利市旭町 3-772

On some linyphiid spiders added to the spider fauna of Japan.

Hiroshi SAITO

3-772, Asahi-cho, Ashikaga 326.

Synopsis

Six linyphiid spiders, *Walckenaeria clavicornis* (EMERTON), *Entelecara dobudongensis* PAIK, *Baryphyma kulczynskii* (ESKOV), *Parasisis amurensis* ESKOV, *Leptophantes luteipes* (L. KOCH) and *Allomengea dentisetis* (GRUBE), together with their taxonomical notes, are recorded. Four species, exclusive of *B. kulczynskii* and *A. dentisetis*, are new to our fauna.

筆者は先に北海道に産するサラグモ科74種を記録し(斎藤, 1982, 1983), この中の7種と追加種1種を新種として記載したが(H. Saito, 1986), その後北海道をはじめ各地の標本を精査した結果, 更に興味深い多くのサラグモ類を確認することが出来た。目下新種については記載準備中であるが, 本稿では筆者が最近までに確認し, 新たに日本のファウナに加わった6種のサラグモについて, それらの分類学的知見と図を付して報告したい。

この小報をまとめるに当たり, 貴重な比較標本やご教示をいただいた韓国の白甲鏘博士, ソ連のESKOV博士, また文献入手のためにご協力いただいた北海道大学理学部動物学研究室の鶴崎展巨博士, 国立科学博物館分館動物研究部の小野展嗣氏をはじめ, 興味深い多くの標本をご恵与いただいた大熊千代子氏, 入江照雄氏, 松本誠治氏, 保田信紀氏, 熊田憲一氏, 松田まゆみ氏の諸氏に対し厚くお礼申し上げます。

1. *Walckenaeria clavicornis* (EMERTON, 1882) ホッカイツノヌカグモ (新称) (Figs. 1-5)

Cornicularia clavicornis EMERTON, 1882, p. 43, pl. 8, f. 7, a, b. *Cornicularia karpinskii* (O. P.-CAMBRIDGE) : De LESSERT, 1910, p. 180, f. 103, 104.

Cornicularia karpinskii (O. P.-CAMBRIDGE) : BRAENDEGAARD, 1946, p. 35, f. 21-23.

Cornicularia karpinskii (O. P.-CAMBRIDGE) : LOCKET and MILLIDGE, 1953, p. 207, f. 126 C, D, G, J, 127 C.

Cornicularia clavicornis EMERTON : HOLM, 1967, p. 24, f. 23-27.

Cornicularia clavicornis EMERTON : PARKER, 1969, p. 51, f. 1, 3, 5, 6.

Walckenaera clavicornis (EMERTON) : LOCKET, MILLIDGE and MERRETT, 1974, p. 70.

Walckenaeria (Cornicularia) clavicornis (EMERTON) : WUNDERLICH, 1972, p. 385, f. 54-55, 62, 64.

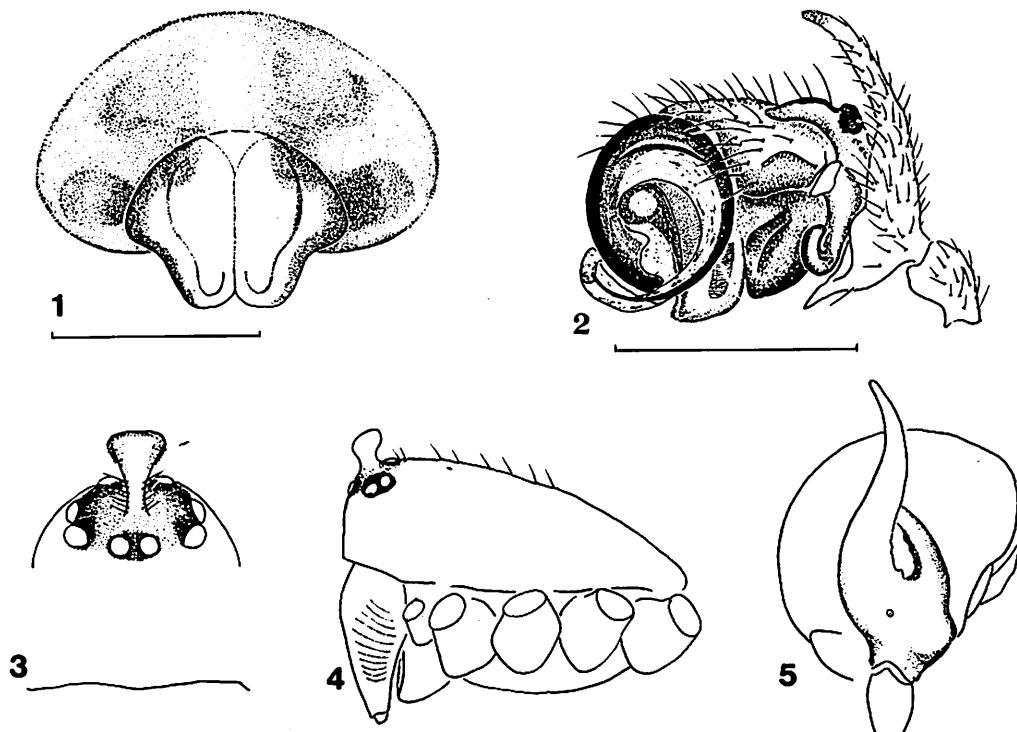
Walckenaeria clavicornis (EMERTON) : MERRETT, LOCKET and MILLIDGE, 1985, p. 393.

本種はニューハンプシャー州ワシントン山より、♂の標本に基づいて EMERTON (1982) によって記載された。本種は *W. karpinskii* (O. P.-CAMBRIDGE, 1873) に非常に類似しているところから、CROSBY & BISHOP (1931) によって、両種の間にシノニム関係があると考えられた。しかしその後、HOLM (1967) によって、その触肢脛節の突起、外雌器の形、あるいは大きさにおける相違などから、それぞれの種が独立種として扱われている。また、PARKER (1969) もイギリス産の種を再調査し、従来 *W. karpinskii* と同定されて来たイギリス種はすべて *W. clavicornis* であることを明らかにしている。北海道産の下記データの種は HOLM (1967) や PARKER (1969) の見解に従うと、明らかに *W. clavicornis* に一致することから本種と同定した。

標微： 体長約2.5mm, 頭胸部は褐色、中窩、放射溝はより黒味強く明瞭。♂の頭部は♀に比べやや高く隆起し、眼域のほぼ中央に図3-4のような角状の突起を具える。(♂)：前列眼は後曲し、中眼間は中眼半径よりやや狭く、中眼と側眼間は中眼直径の約1.5倍；後列眼は前曲で、中眼間は中眼直径、中眼と側眼間は中眼直径よりやや広い。(♀)：前列眼はほぼ端直で中眼間は中眼半径よりやや狭く、中眼と側眼間はほぼ中眼半径；後列眼は前曲し、中眼間は中眼直径、中眼と側眼間はほぼ中眼半径。♂の額は中眼域の長さより広く、♀では狭い。上顎は茶褐色で発音器を持ち、♂の前牙堤には4歯、後牙堤には3歯、♀では前牙堤歯5本、後牙堤歯5本。PARKER (1969) によるとイギリス産の本種では後牙堤歯を欠くものが知られているが、筆者の検した標本中からは後牙堤歯を欠くものはみられなかった。胸板は幅く長さで黒味を帯びた茶褐色、周縁は細く黒色となり、第4脚基節間は基節直径よりやや広い。歩脚は黄褐色。脛節背面刺毛2, 2, 1, 1。すべての蹠節に聴毛があり、♂ TmI 0.48, ♂ TmI 0.53。第1-2脚跗節の爪は5-6本の歯を持ち、第3-4跗節の爪は3-2本。♂触肢脛節は図3のよう

に、前方に突出する2つの突起を持ち、背面には1本の聴毛がある。小杯葉は小さく、末端部で強く鉤状に湾曲する。栓子は長く先端外側部で大きな円を描く(Fig. 2)。腹部は灰黒色で小判形(この腹部の形により本種の♀は、他の種に比べ体形長目の感を与える。), 背面には2対の圧入点がある。外雌器の腹面板は先端部でやや細くなった舌状で、基部両側に1対の貯精のうが透視される。

検視標本： 1♀, 3-VI-1984, 北海道大雪山黒岳; 3♂, 16-VII-1984, 北海道ニッセイカウシユッペ山; 1♀, 4-VII-1985, 北海道大雪山小泉岳, 保田信紀氏採集。



Figs. 1～5. *Walckenaeria clavicornis* (EMERTON) — 1. 外雌器(スケール0.2mm)。2. ♂触肢外側面(スケール0.5mm)。3. ♂背甲前面。4. ♂頭胸部側面。5. ♂触肢脛節背面。

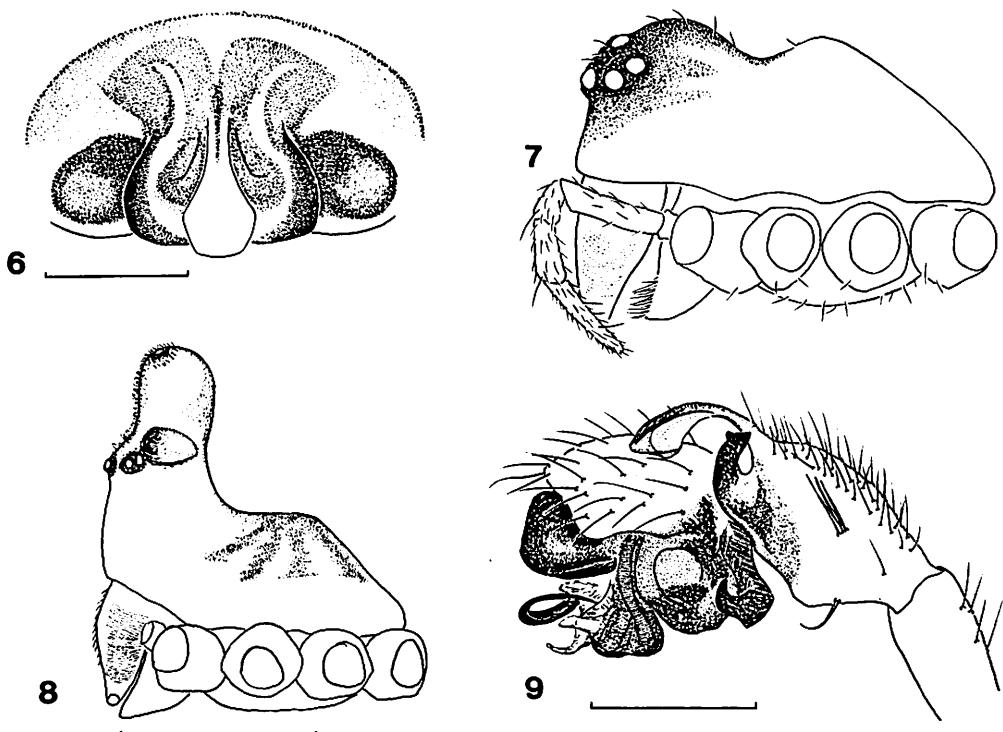
2. *Entelecara dobudongensis* PAIK, 1983 コウライホテイヌカグモ(新称)(Figs. 6-9)

Entelecara dobudongensis PAIK, 1983, p. 30, f. 8-14.

本種は♂1頭の標本に基づいて韓国より記載された。白甲鏞博士の私信によると、今のところ韓国では本種の♀は記録されていない。筆者が現在までに確認した標本は下記データのみで、比較的稀な種のようである。

標徴： 体長約2mm。背甲は頭部を除き全体に淡い黄褐色、頭部は強く黒色を帯びる。♂の頭部は図8のように垂直に高く隆起し、その頂近くに後中眼がある。(♂)：前列眼は後曲、中眼間は中眼直径、中眼と側眼間は中眼直径の約2倍、後中眼間は中眼直径、後側眼の後には非常に大きな眼後裂溝がある。♀の頭部も強く黒色を帯びるが、♂のように瘤状に隆起しない。

(♀)：前列眼はほぼ端直、中眼間は中眼半径、中眼と側眼間は中眼直径よりわずかに狭い。後列眼はやや前曲し、互いにほぼ等しい間隔(中眼直径)に位置する。額は♂♀共に中眼域の長さに等しい。上顎は黄褐色で発音器を具え、特に♂においては発音器部が濃褐色となる。♀の



Figs. 6~9. *Entelecara dobudongensis* PAIK — 6. 外雌器(スケール0.2mm). 7. ♀頭胸部側面. 8. ♂頭胸部側面(スケール0.5mm). 9. ♂触肢外側面(スケール0.2mm).

前牙堤には5歯、後牙堤には5小歯を具える。歩脚脛節背面刺毛は、2, 2, 1, 1, ♂の第1～2脛節ではその刺毛は非常に短く、脛節直徑がそれより短い。すべての蹠節は蹠毛を持ち、♂ TmI 0.46, ♀ TmI 0.5。♀の外雌器は図6のようで、♂の触肢は図9のようである。

検視標本： 1♂, 5～9-VI-1958, 福岡県福岡市英彦山, 大熊千代子氏採集； 1♂, 3-VI-1983, 静岡県伊豆天城山湯ヶ島町市山, 熊田憲一氏採集； 1♀, 15-IX-1985, 熊本県球磨郡五木村(大滝), 入江照雄氏採集。

3. *Baryphyma kulczynskii* (ESKOV, 1979) グンバイヌカグモ(Figs. 10-14)

Paraestigia kulczynskii ESKOV, 1979, p. 70, 3-5, 11-13.

Baryphyma kulczynskii (ESKOV) : BRIGNOLI, 1983, p. 328.

Paraestigia kulczynskii ESKOV : MATSUDA, 1986, p. 84, f. 9-12.

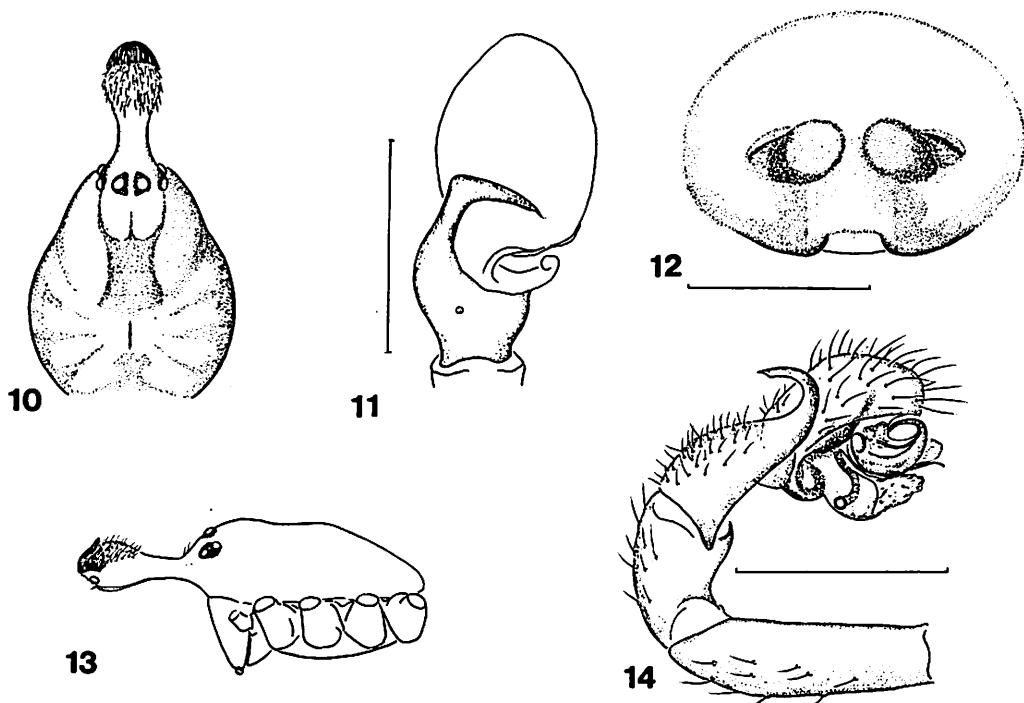
本種はすでに筆者の同定に基づいて、松田(1986)により *Paraestigia kulczynskii* ESKOV, 1979として記録されたものである。この *Paraestigia* 属は MILLIDGE (1954) によって新設されたもので、これまでスウェーデン、イギリス、グリーンランド、ソ連のそれぞれの国から、この属の種として1種ずつが記載されていた。MILLIDGEは原記載の中で、この属と *Baryphyma* 属が蹠毛の数やその位置、歩脚刺毛、外雌器あるいは触肢構造において、非常に近縁なものであることを指摘したが、その♂の特異な頭胸部の形や腹部背面の圧入点の有無などによって区別した。しかしその後、*Baryphyma* 属、*Minyriolooides* 属、*Paraestigia* 属、*Acanthophyma* 属の各属は実質的に同一触肢構造を持つとして、MILLIDGE (1977) はこれらを先取権を持つ *Baryphyma* 属1属に統合した。そして最近の BRIGNOLI (1983) もこの見解に従っている。

筆者は本種の標本を調査した当時、残念ながらいずれの属の種も日本から記録されていなかったことから、これらの属については文献のみにより調査し比較検討をおこなった。そして、やはり本種の特異な頭胸部の形態を重視し、この *Paraestigia* 属を独立属と考えた。しかしながら、今年はじめ幸いにもゼンケンベルグ博物館を訪ねる機会を得、日本のタイプ標本をはじめヨーロッパの多くの種を調査したが、その時 *Baryphyma* 属のタイプ種と同じ *B. pratensis* (SIMON) [Det. WUNDERLICH, No. 22870 / 11]の標本を調査した結果、本種の触肢構造や外雌器は明らかに *Baryphyma* 属と同一構造をなすのであることを確認した。そこでここに、先の MILLIDGE (1977) の見解を妥当なものと支持し、所属を変更する。

標徴： 体長約2mm。頭胸部は黒味の強い黄褐色、中窓、放射溝は黒色で鮮明。♂の頭部はわずかに隆起するが瘤を欠き、図10, 13のように前方に長く突出し、その先端部下面に前中眼

がある。突出した頭部の末端背面には、かつらの様な太い毛の束を生じる。 σ の前中眼間は中眼直径の約1.5倍で、ほぼ中央に1本の長毛を持ち、後列眼はわずかに後曲し、中眼間は中眼直径よりわずかに狭く、中眼と側眼間は中眼直径の約2倍。 (φ) ：前列眼はやや後曲し、中眼間は中眼直径、中眼と側眼間は中眼の約1.5倍；後列眼はわずかに後曲し、中眼間は中眼直径よりわずかに狭く、中眼と側眼間はほぼ中眼直径。上顎は黄褐色で発音器を具え、 σ の前牙堤は4歯を持つ。 φ の額は中眼域の長さの $\frac{1}{2}$ より狭い。胸板は黒褐色で周縁は特に濃く、第4脚基節間は基節直径よりわずかに狭い。腹部は黒色で、背面には2対の圧入点がある。歩脚は淡黄褐色で脛節背面刺毛は2, 2, 1, 1。 σ TmI 0.84, φ TmI 0.89。 σ の触肢脛節背面には1本の聴毛があり、前縁は図11のように鎌状に強く湾曲した突起を生じる。栓子は鞭状で長く、末端で1回転し指示器下方に突出する。外雌器は橢円形の腹面板におおわれ、そのほぼ中央に1対の貯精のうが透視され、後方に小さな開口部がある。

検視標本： 2 σ , 1 φ , 5-V-1984, 北海道士幌町東居辺, 松田まゆみ氏採集。



Figs. 10 ~ 14. *Baryphyma kulczynskii*(ESKOV) — 10. 頭胸部背面。11. σ 触肢脛節背面（スケール0.2mm）。12. 外雌器（スケール0.1mm）。13. σ 頭胸部側面。14. σ 触肢内側面（スケール0.2mm）。

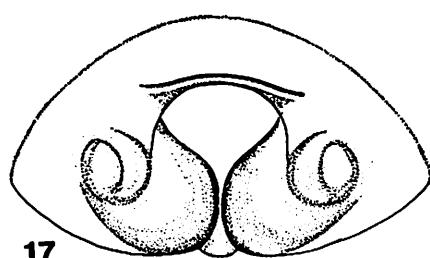
4. *Parasisis amurensis* ESKOV, 1984 タイリクコサラグモ (新称) (Figs. 17-18)

Parasisis amurensis ESKOV, 1984, p. 1338, f. 1-6.

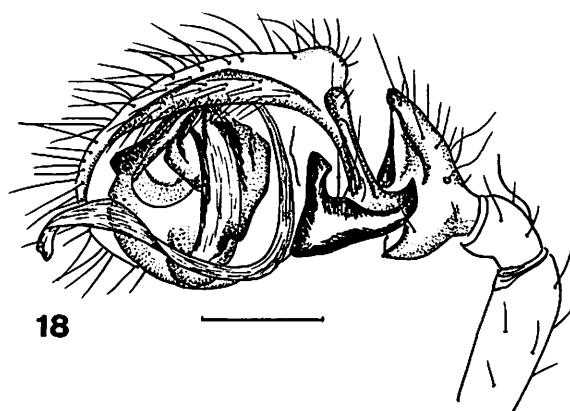
本種は中国東北部とソ連邦との国境を流れるアムール川流域から採集された標本に基づいて、新属新種として記載された。ESKOV (1979) によると、この属はその脛節背面刺毛 (2, 2, 1, 1) や第1脚蹠節聴毛の位置 (0.33) により、*Drepanotylus* 属グループに属するものと考えられている。本種は日本においても広く分布しているものと思われるが、現在のところ採集例は少ない。

標徴： 体長は約2.5mm程で、♂に比べ♀はやや小さい。頭胸部は全体に赤味の強い黄褐色で、頭部はやや淡い。中窓、放射溝は明瞭。(♂)：前列眼はほぼ端直、中眼間は中眼半径より狭く、中眼と側眼間は中眼直径よりやや狭い；後列眼はやや前曲し、中眼間は中眼直径より狭く、中眼と側眼間はほぼ中眼半径に等しい。(♀)：前列眼は後曲、中眼間は中眼半径、中眼と側眼間は中眼直径よりわずかに狭い。後列眼はやや前曲で、各眼の大きさはほぼ等しく、互いに中眼直径で離れる。♂の額は中眼域の長さの約1.5倍、♀では中眼域の長さにほぼ等しい。上顎は発音器を具え、♂では前方下部にキチン化した瘤を持ち、前牙堤に4歯、♀では5～6本の前牙堤歯、4～5本の後牙堤歯を具える。胸板は丸いハート形、中凸で、第4脚基節間はほぼ基節直径。脛節背面刺毛は2, 2, 2, 1。♂ TmI 0.28, ♀ TmI 0.33。腹部は灰黒色で背面には1対の圧入点がある。♂触肢は図18のよう、♀の外雌器は図17のようである。

検視標本： 2♂, 1♀, ? - ? - 1976, 宮崎県エビノ高原、浜田竜一氏採集； 2♂, 3♀, 30-VIII-1981, 山梨県塩山市柳沢峠、松本誠治氏採集； 5♀, 12-VI-1983, 山梨県川口湖畔、A. D. BLEST 博士採集。



17



18

Figs. 17～18. *Parasisis amurensis* ESKOV — 17. 外雌器. 18. ♂触肢外側面 (スケール0.2 mm).

5. *Leptphyphantes luteipes* (L. KOCH, 1879) キアシヤセグモ (新称) (Figs. 15-16)

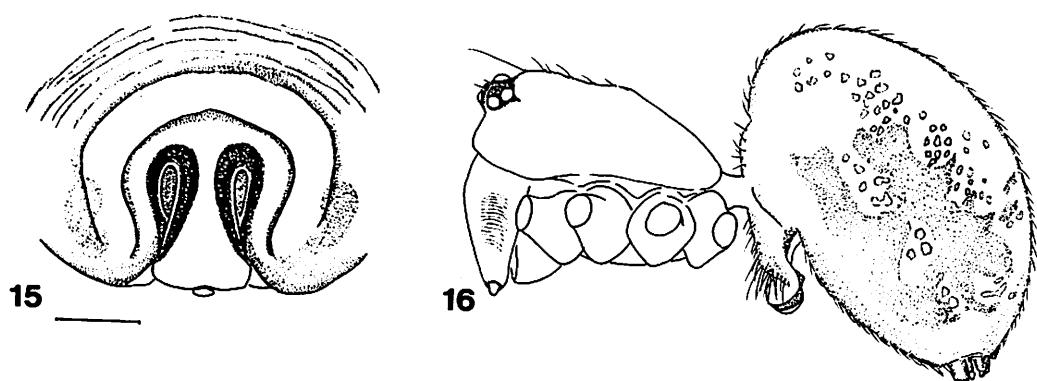
Linyphia luteipes L. KOCH, 1879, p. 21, pl. 1, f. 8, 8a.

Leptphyphantes luteipes (L. KOCH): HOLM, 1973, p. 93, f. 71-72.

本種は L. KOCH (1879) によってシベリア産の♀の標本に基づいて記載された。HOLM (1973)によると本種はその特異な外雌器により, *nebulosus* グループに属するものと考えられている。今のところ日本では北海道のみから知られ、♀のみが確認された。

標徴： 体長約 3 mm。背甲は黄褐色、放射溝や中窩は褐色で明瞭で、周縁は幅広く濃褐色となる。頭部は胸部に比べ淡く、やや隆起して中窩から後列眼の間には、数本の毛が 1 列に並ぶ。前列眼はほぼ端直で中眼はほとんど接し、中眼と側眼間は中眼直径。後列眼はわずかに後曲し、互いにほぼ等しい間隔で並ぶ。上顎は黄褐色で発音器を具え、前牙堤歯 3 本、後牙堤歯 4 本を持つ。額は中眼域の長さより狭く、数本の短い毛が散在する。胸板は褐色で周縁は強く黒味を帯び、ハート形、中凸で第 4 脚基節間は基節直径。歩脚は淡黄褐色、第 1 脚腿節には 1 本の前側面刺毛があり、すべての脛節は 2 本の背面刺毛と 1 本の前側面刺毛を持つ。またすべての蹠節は 1 本の背面刺毛を持ち、第 4 脚蹠節には聴毛を欠き、 $TmI = 0.23$ 。腹背には *Arcuphanes* や *Leptphyphantes* 属特有の斑紋を持つが、背面の大半は白色地におおわれる。外雌器は図 15 のようである。

検視標本： 1 ♀, 中旬-VIII-1978, 北海道大雪山雲ノ平, 1 ♀, 下旬-VII-1984, 北海道大雪山小泉岳, 保田信紀氏採集。



Figs. 15 ~ 16. *Leptphyphantes luteipes* (L. KOCH) — 15. 外雌器 (スケール 0.1mm). 16. ♀側面.

6. *Allomengea dentisetis* (GRUBE, 1861) カナダサラグモ (Figs. 19-22)

Micryphantes dentisetis GRUBE, 1861, p. 167.

Microneta pinnata EMERTON, 1915, p. 152, pl. 3, f. 1, 1a.

Microneta plumosa : EMERTON, 1915(lapsus in caption of figure for *M. pinnata*).

Linyphia ontariensis EMERTON, 1925, p. 85, f. 5(a, b, c, d, e,).

Helophora ontariensis (EMERTON) : BLAUVERT, 1936, p. 154, pl. 15, f. 103, 104.

Helophora ontariensis (EMERTON) : CHAMBERLIN and IVIE, 1947, p. 56, pl. 9, f. 79.

Allomengea pinnata (EMERTON) : IVIE, 1967, p. 130.

Helophora ontariensis (EMERTON) : YASUDA, 1985, p. 96.

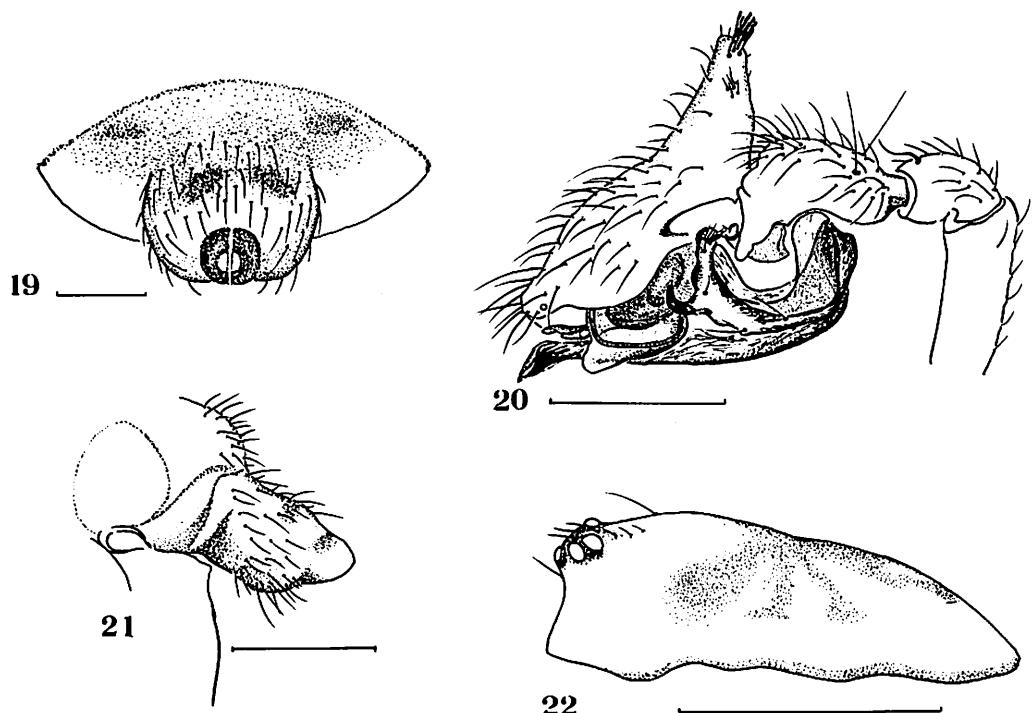
Allomengea pinnata (EMERTON) : MATSUDA, 1986, p. 83.

本種ははじめ *Micryphantes dentisetis* としてイルクーツク産の♂に基づいて, GRUBE(1861)によって記載された。しかし筆者の知る限りではその後の文献においても、本種の正体は十分に認識されなかったためか、再び EMERTON (1915, 1925) によってカナダから新種として記載されるという経過をたどったものと思われる。

筆者ははじめて本種を検した際、EMERTON (1925) によってカナダのオンタリオ州南部から採集された標本をタイプとする *Helophora ontariensis* (= *Linyphia ontariensis*) と同定した。この EMERTON の原記載は、この種の色彩や幼生における腹背の紋様、上顎や外雌器などの形態を簡単に記述したものであるが、♂幼生の頭胸部と触肢背面、下方から見た上顎と下顎、腹部背面、外雌器の側面および背面のそれぞれの図が付してあり、この種の特徴をよく表している。その後、BLAUVELT (1936) はニューヨーク州産の 2 頭の♀に基づいてこの種を再記載し、外雌器やゲニタリアの詳細な図を描いている。また CHAMBERLIN and IVIE (1947) によってアラスカからも記録され、彼らは本種の♂触肢外側面の鮮明な図を描いた。これらはいずれも北海道産の種によく一致していた。そこで筆者は一昨年の東京蜘蛛談話会において、本種が日本にも産することを紹介し、和名を採集地に因みカナダサラグモと仮称したものである。しかしその後の調査で本種が *Allomengea* 属のものであることを確認し、また、すでに IVIE (1967) によってその所属が変更され、*Allomengea pinnata* (EMERTON, 1915) のシノニムであると報じられていることを知った。松田 (1986) の北海道中央高地 (大雪山国立公園) の真正蜘蛛類捕獲 (1) における本種の記録は、筆者のここまでとの見解に基づくものである。ところが、最近ソ連の ESKOV 博士との文通でソ連(特にシベリア産)のサラグモ類の標本を調査した結果、*A. pinnata* は明らかに ESKOV 博士によって同定された *A. dentisetis* のシノニムであり、その外雌器の形

において、シベリア産の *A. pigra* (L. KOCH, 1879) に非常によく類似するものであることを確認した。

標徴： 体長♀で約 5 mm。♂は 4 ~ 4.5 mm で比較的大形なサラグモ (Linyphiinae) である。♀の頭胸部は図22のようにやや扁平でやや黒味を帯びた黄褐色、頸溝や放射溝はより黒味強く明瞭。♂の頭部は♀に比べわずかに隆起するが同様な色彩を持つ。眼は黒縁を持ち、♂♀共に前列眼はやや後曲し、中眼間は中眼半径よりやや狭く、中眼と側眼間はほぼ中眼直径。後列眼の大きさはほぼ等しく、互いに等間隔に位置する。上顎は赤褐色で外側面には発音器を持つ。また、前牙堤には 4 本の大歯、後牙堤には 4 本の小歯を具え、♀の牙堤歯は♂のそれに比べ整然と 1 列に並ぶ。胸板は黒褐色でハート形、癒合した下唇の基部両端には小さな半円形の凹みがある。歩脚は赤味の強い黄褐色。脛節背面刺毛は 2, 2, 2, 2。第 1 - 2 脚脛節には更に前・



Figs. 19 ~ 22 *Allomengea dentisetis* (GRUBE) — 19. 外雌器 (スケール 0.2mm)。20. ♂触肢外側面 (スケール 0.5mm)。21. 外雌器側面 (スケール 0.5mm)。22. ♀背甲側面 (スケール 10 mm)。

後側面刺毛各 1 本と 2 本の腹面刺毛、第 3 - 4 脚脛節は 2 本の前側面刺毛（末端近くに位置する 1 本は、一方より太く短い）と末端に太く短い 1 本の後側面刺毛を持ち、各腹面には 1 - 2 本の刺毛を持つ。すべての蹠節に聴毛があり、♂ TmI 0.71, ♀ TmI 0.68。また第 1 脚の跗節器は♂♀共に約 0.8 である。腹部背色は淡い灰褐色、腹面は灰黒色となり、♂♀共に背面には数本の黒色山形斑紋を持つ。外雌器は図 19, 21 のように突出し末端部で急に細くなり、末端中央には縦状の亀裂を生じる。(Fig. 19)。♂の触肢杯葉は基部で図 20 のように突出し末端近くに太く短い数本の剛毛を持つ。小杯葉は後方に強く U 字形に湾曲し、基部前縁には小さな鉤状に曲がった突起がある。

検視標本： 9 ♀, 24-X-1982, 北海道札幌市北海道大学構内、鶴崎展巨氏採集； 1 ♀, 14-XI-1983, 北海道河東郡士幌町東居辺、松田まゆみ氏採集； 2 ♂, 3 ♀, 31-VII-1983, 北海道大雪山白雲岳, 3 ♀, 3-IX-1983, 3 ♂, 1 ♀, 11-IX-1983, 北海道石狩川源流域, 保田信紀氏採集。

文 献

- BLAUVELT, H. H., 1936. The Comparative Morphology of the Secondary Sexual Organs of Linyphia and some Related Genera, Including a Revision of the Group. *Festchrift Embrik Strand*, 2 : 81-172, 18 pls.
- BRAENDEGAARD, J., 1946. The zoology of East Greenland. *Meddr Grönland*, 121 : 1-128.
- CHAMBERLIN, R. V. & W. IVIE, 1947. The spiders of Alaska. *Bull. Univ. Utah (Biol)*, 37(10) : 1-103.
- CROSBY, C. R. & S. C. BISHOP, 1931. Studies in American spiders : The genera *Cornicularia*, *Paracornicularia*, *Tigellinus*, *Walckenaera*, *Epiceraticelus*, and *Pelecopsis*, with description of new genera and species. *Jour. N. Y. Ent. Soc.*, 39 (3) : 359-403.
- EMERTON, J. H., 1882. New England Spiders of the Family Therididae. *Trans. Connect. Acad. Arts Sci.*, 6 : 1-86, 24 pls.
- 1915. Canadian Spiders, II. *Trans Connect. Acad. Arts Sci.*, 20 : 145-160, 3 pls.
- 1925. New spiders from Canada and the adjoining states, 4. *Canad. Ent.*, 57 : 65-69.
- ESKOV, K. Y., 1979. Three new species of spiders of the family Linyphiidae from Siberia. *Trudy zool. Inst. Leningr.*, 85 : 65-72.
- 1984. New and little known genera and species of spiders (Aranei, Linyphiidae) from the Far East. *Zool. Zhurn.*, 63 (9) : 1337-1344.
- GRUBE, A. E., 1861. Beschreibung neuer, von den Herren L. v. SCHRENCK, MAACK, C. v.

- DITMAR u. a. im Amurlande und in Ostsibirien gesammelter Araneiden. *Bull. Acad. imp. sci. S.-petersb.*, 4 : 161-180.
- HOLM, Å., 1973. On the Spiders Collected during the Swedish Expeditions to Novaya Zemlya and Yenisey in 1875 and 1876. *Zoologica Scr.*, 2 : 71-110.
- 1967. Spiders from West Greenland. *Meddr Grönland*, 184 (1) : 1-99.
- IVIE, W., 1967. Some synonyms in American spiders. *J. N. Y. ent. Soc.*, 75 : 126-131.
- KOCH, L., 1879. Arachniden aus Sibirien und Novaya Semlya, eingesammelt von der schweidischen Expedition in Jahre 1875. *Kong. Svenska Vet.-Akad. Handl.*, 16 (5) : 3-136, 7 pls.
- LESSERT, R. DE, 1910. Catalogue des invertebrés de la Suisse, Fasc. 3, Araignées. *Mus. Hist Nat. Genève*, pp. 635.
- LOCKET, G. H. & A. F. MILLIDGE, 1953. British Spiders II. pp. 449. Ray Society, London.
- LOCKET, G. H., A. F. MILLIDGE & P. MERRETT, 1974. British Spiders III. pp. 314 Ray Society, London.
- 松田まゆみ, 1986. 北海道中央高地(大雪山国立公園)の真正蜘蛛類, 補遺(1), 上士幌町ひがし大雪博物館研究報告, 8 : 83-92.
- MERRETT, P., G. H. LOCKET & A. F. MILLIDGE, 1985. A check list of British spiders. *Bull. Br. arachnol. Soc.*, 6 (9) : 381-403.
- MILLIDGE, A. F. 1954. On a new species and genus of spider. *Ann. Mag. nat. Hist.*, 7 (12) : 253-256.
- 1977. The conformation of the male palpal organs of linyphiid spiders, and its application to the taxonomic and phylogenetic analysis of the family (Araneae: Linyphiidae). *Bull. Br. arachnol. Soc.*, 4 (1) : 1-60.
- PARKER, J. R., 1969. On the establishment of *Cornicularia clavicornis* EMERTON (Araneae) as a British species. *Bull. Br. arachnol. Soc.*, 1 (4) : 49-54.
- PAIK, K. Y., 1983. Three new species of the Family Erigonidae (Araneae) from Korea. *J. Inst. Nat. Sci. Keimyung Univ.*, 2 : 29-35.
- 斎藤 博, 1982. 北海道のサラグモ (Linyphiidae) について. *Kishidaia*, 49 : 8-21.
- 1983. 北海道のサラグモ (Linyphiidae) について(2). インセクト, 34(2) : 50-60.
- SAITO, H., 1986. New Erigonine Spiders Found in Hokkaido, Japan. *Bull. Natn. Sci. Mus., Tokyo, Ser. A*, 12 (1) : 9-24.
- WUNDERLICH, J., 1972. Zur Kenntnis der Gattung *Walckenaeria* BLACKWALL, 1833. *Zool.*

Beitr., (N. F.) 18: 371-427.

保田信紀, 1985. 上川町(大雪山・石狩川源流地域)の真正蜘蛛類ノートVI(総目録), 上川町
の自然, 生物目録集: 93-104.

熊本県のサラグモ類

入江照雄*・斎藤博**

A list of linyphiid spiders in Kumamoto Prefecture.

Teruo IRIE* and Hiroshi SAITO**

Synopsis

In the paper, we published the results of our research on the family Linyphiidae of Kumamoto Prefecture.

The study on spiders was begun in 1960 and a total of 45 species of 29 genera belonging to family Linyphiidae have been recognized to date.

The species newly found in Kyushu region are as follows: *Ceratinella brevis*, *Oia imadatei*, *Syedra oii*, *Meioneta oblique*, *Meioneta unguilata*, *Bathyphantes tateyamaensis*.

1. はじめに

熊本県のクモに関する報文として、まとめたものは、木庭奏（1958, 1959）の「熊本県にみられるクモ(1)(2)」以外にない。なお、県内小地域を対象とした報文としては、「菊池渓谷道路周辺の昆虫・クモ類の調査報告」（1975, 小野勇一ほか）、「菊池渓谷のクモ」（1982, 入江・西川喜朗）、「天草の真正クモ類」（1985, 入江）などがある。

熊本県内のクモについて、1960年から調査を行ってきたが、まだすべての種についての整理が終わっていない。まだ研究中のクモも多く、「熊本県の真正クモ類目録」として発表するには、まだ資料不足のため、今後、各科ごとに少しずつ整理してまとめていく予定である。

今回は、今までに採集したサラグモ科のクモについて報告する。県内のサラグモ科・コサラグモ科の記載された報文には、「熊本県で見られるクモ(1)(2)」（3種）、「菊池渓谷道路周辺の昆虫・クモ類の調査報告」（14種）、「九州の洞窟産真正蜘蛛類(I)(IV)(V)」（1978, 1981, 1982,

* 861-05 山鹿市小原 熊本県立教育センター Kumamoto Education Center. Obaru, Yamaga-shi, Kumamoto, 861-05

** 326 足利市旭町3-772 Asahi-cho, Ashikaga-shi, Tochigi, 326

入江 - 6 種), 「菊池渓谷のクモ」(20種), 「天草の真正クモ類」(21種) がある。

本文を草するにあたり, 日頃種々のご指導を賜っている吉倉眞博士(熊本大学名誉教授), 八木沼健夫博士(追手門学院大学教授)に対し謹んで感謝の意を表する。なお, 標本の一部をご恵与いただいた田辺力氏(鹿児島大学理学部院生), 1982年より調査にご協力いただいた木下信博氏(横島小学校教諭)に対し厚くお礼を申し上げる。

2. 調査地

サラグモ科のクモを採集した場所は, 次の49か所である。(Fig. 1)

1	菊池市中山	20	〃	〃	下梶原	42	〃	苓北町富岡
2	菊池市菊池渓谷	21	〃	〃	入鴨	43	〃	新和町大多尾
3	菊池渓谷内の 「天狗岩の穴」	22	〃	〃	平沢津	44	牛深市権現山	
4	菊池郡大津町北向山	23	〃	〃	飯干	45	〃	戸島
5	阿蘇郡南小国町	24	〃	〃	中村	46	〃	法ガ島
6	〃 阿蘇町大観望	25	〃	〃	「内谷洞」	47	〃	下須島
7	〃 〃	26	〃	〃	内谷	48	〃	砂月
8	〃 久木野村	27	〃	〃	山江村山口	49	〃	桑島
	「構口のY字穴」	28	〃	〃	球磨村高沢			
9	山鹿市小原	29	〃	〃	水上村市房山			
	(教育センター)	30	八代郡坂本村原女木					
10	熊本市金峰山	31	〃	〃	片岩			
11	〃 南熊本	32	水俣市田子の須					
12	下益城郡砥用町早楠	33	宇土郡三角町「新地の穴」					
13	八代郡泉村雁俣山	34	天草郡大矢野町弓ヶ浜					
14	〃 〃 樅木	35	天草郡松島町 (熊本大学臨海実験所)					
15	〃 〃 山大切	36	〃 有明町老岳					
16	〃 〃 水上越	37	〃 姫戸町権現山					
17	八代市「坂谷の穴」	38	〃 御所浦町					
18	球磨郡五木村頭地	39	〃 五和町御領					
19	〃 〃 掛橋	40	本渡市染岳					
		41	天草郡天草町角山					

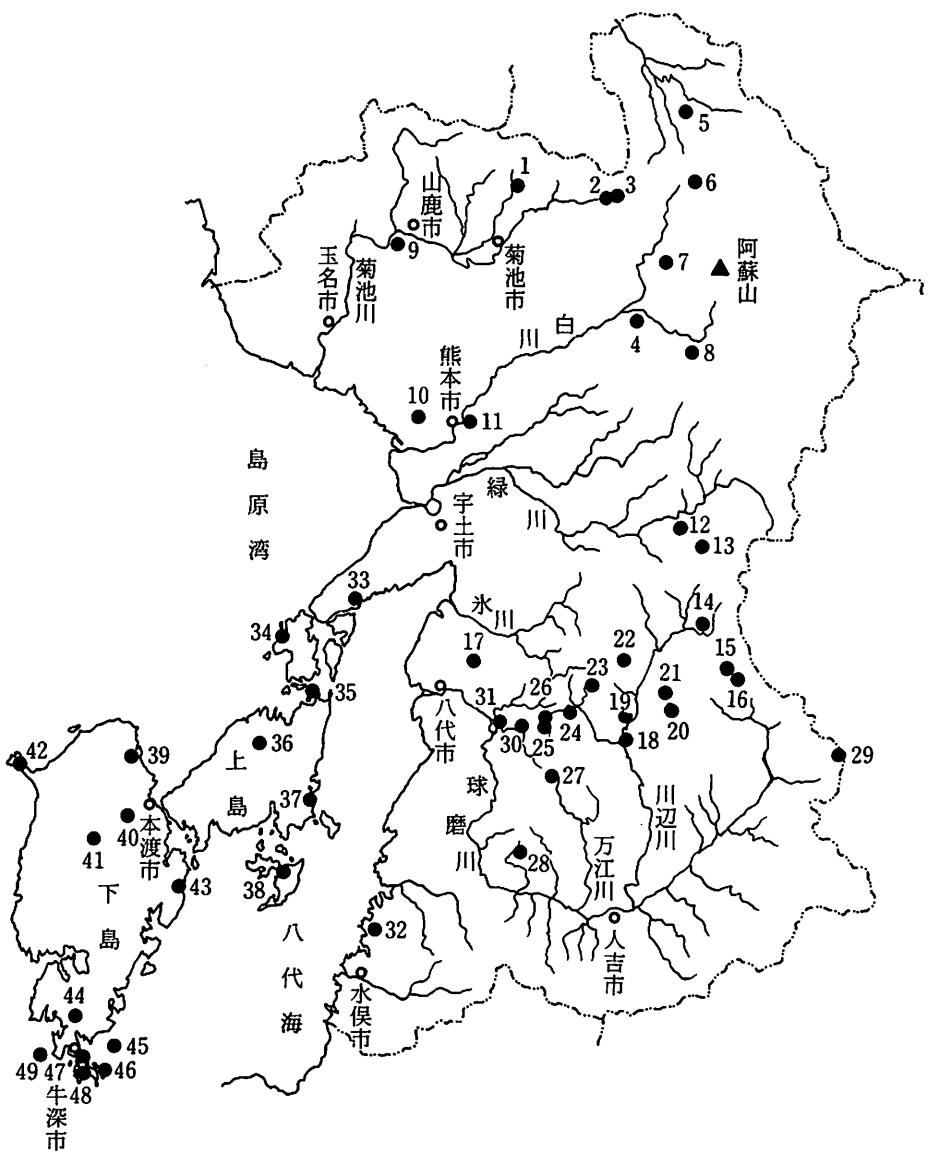


Fig. 1 Map showing the research locations in Kumamoto Prefecture.

3. サラグモ科目録

- サラグモ科は、従来サラグモ科 Linyphiidae とコサラグモ科 Erigonidae に分離されていたが、現在は一つにまとめて扱われている。
- ここでは、サラグモ科をコサラグモ亜科 Erigonine とサラグモ亜科 Linyphiine の 2 亜科として扱う。
- 属の配列は、主に MERRETT, P., LOCKET, G. H. & MILLIDGE, A. F. (1985) に従い、一部の

属については、筆者らの見解による。

Erigonine コサラグモ亜科

1. *Ceratinella brevis* (WIDER) チビクロマルハラカタグモ

- 体長：1.5–1.8mm。
- 分布：本州、九州。
- 産地：菊池渓谷（1♀ 1♂ 8-X-1978）
- 九州新記録種。

2. *Walckenaeria vulgaris* (OI) コテングヌカグモ

- 体長：♀2.4–2.8mm, ♂ 2–2.2mm。
- 分布：本州、九州。
- 産地：有明町老岳（1♀ 12-VII-1970）
- 九州では、沖縄（1967, 下謝名）、屋久島（1965, 大江）での記録がある。

3. *Walckenaeria* sp. テングヌカグモの1種

- 体長：1.5–1.7mm。
- 分布：九州。
- 産地：市房山（1♀ 1♂ 27-X-1985, 田辺氏採）
- 新種候補。

4. *Oia imadatei* (OI) イマダテテングヌカグモ

- 体長：1.4mm。
- 分布：本州、九州。
- 産地：菊池市中山（1♀ 23-III-1973）山鹿市小原（1♀ 11-XII-1978）五木村下
梶原（1♀ 13-VI-1982）姫戸町権現山（5♀ 6-IV-1985, 田辺氏採）
- 九州新記録種。

5. *Entelecara dabudongensis* PAIK コウライホテイヌカグモ

- 体長：2 mm。
- 分布：本州、九州。
- 産地：五木村大滝（1♀ 15-IX-1985）

○九州では、ほかに福岡県英彦山（1983、大熊）からの記録がある。

6. *Ummeliata insecticeps* (BÖS. et STR.) セスジアカムネグモ

○体長：2-3mm。

○分布：北海道、本州、四国、九州。

○産地：牛深市下須島（1♀ 22-VI-1959）北向山（1♀ 13-X I-1971）熊本市南熊本（3♀ 2♂ 6-VII-1974）山鹿市小原（2♀ 1♂ 7-VI-1975）

7. *Ummeliata tokyensis* (UYEMURA) トウキョウアカムネグモ

○体長：2.5-2.8mm。

○分布：本州、九州。

○産地：熊本市南熊本（1♀ 1♂ 6-VII-1974）山鹿市小原（1♂ 12-VII-1983）老岳（1♀ 1♂ 9-X II-1984）

8. *Hylyphantes graminicola* (SUNDEVALL) クロナンキングモ

○体長：2.5-3mm。

○分布：本州、九州。

○産地：久木野村（1♀ 30-V-1965）

9. *Erigonidium (?) torquipalpis* OI マダラナンキングモ

○体長：2-2.5mm。

○分布：本州、九州。

○産地：五木村入鴨（2♂ 21-IX-1980）五木村下梶原（1♀ 1-VIII-1982）

○九州では、ほかに大分県（1982、菊屋）からの記録がある。

10. *Gnathonarium exsiccatum* (BÖS. et STR.) ニセアカムネグモ

○体長：1.5-2mm。

○分布：本州、四国、九州。

○産地：新和町大多尾（1♀ 4-VIII-1967）北向山（1♀ 1-VI-1975）山鹿市小原（1♀ 1♂ 7-VI-1975, 1♀ 3-VII-1986）熊本市南熊本（2♀ 1♂ 12-VI-1978）菊池渓谷（1♀ 1♂ 24-V-1979）

11. *Tmeticus japonicus* OI ヌカグモ

- 体長：2.6mm。
- 分布：北海道，本州，九州。
- 産地：五木村大滝（1♂ 8-X-1983）

12. *Gonatium arimaense* OI アリマケズネグモ

- 体長：2.5-3mm。
- 分布：本州，九州。
- 産地：菊池渓谷（1♀ 1♂ 14-X-1981）

13. *Asperthorax communis* OI ザラアカムネグモ

- 体長：1.8-2.5mm。
- 分布：本州，四国，九州。
- 産地：市房山（1♀ 16-V-1970）熊本市金峰山（1♀ 28-X-1970）北向山（3♀ 1-VI-1975）菊池渓谷（3♀ 12-VII-1978）五木村内谷洞（1♀ 19-XII-1981）球磨村高沢（1♀ 10-IV-1985，田辺氏採）泉村樅木（1♀ 4-V-1985）

14. *Dichornue hikosanensis* OI ヒコサンヌカグモ

- 体長：2-2.2mm。
- 分布：九州。
- 産地：北向山（2♀ 1♂ 2-V-1973，5♀ 3♂ 1-VI-1986）牛深市権現山（1♀ 3-VIII-1973）菊池渓谷（2♀ 2♂ 8-X-1978）五木村下梶原（1♀ 1♂ 4-V-1981）苓北町富岡（1♀ 1♂ 14-VII-1981）五木村内谷（1♀ 2-VI-1984）
- 九州に広く分布するものと思われる。標式産地は福岡県英彦山。

15. *Nematogmus sanguinolentus* (WAKCK.) チビアカサラグモ

- 体長：1.5mm。
- 分布：本州，四国，九州。
- 産地：牛深市戸島（1♀ 30-VII-1965）坂本村原女木（1♂ 5-V-1985，田辺氏採）山鹿市小原（1♂ 11-X-1985）

16. *Ceratinopsis setoensis* (OI) イソヌカグモ

- 体長：♀2.2-2.6mm, ♂1.8-2mm。
- 分布：北海道，本州，九州。
- 産地：牛深市戸島（1♀1♂ 17-VI-1971）大矢野町弓ヶ浜（1♀1♂ 30-VII-1972）
牛深市砂月（1♂ 4-VIII-1973）
- 九州での記録は、ほかに屋久島（1965, 大江）がある。

17. *Diplocephalooides saganus* (BÖS. et STR.) ハラジロムナキグモ

- 体長：2mm。
- 分布：北海道，本州，四国，九州。
- 産地：牛深市権現山（1♀ 23-VI-1959）南小国町（1♀ 2-VIII-1966）牛深市法が
島（1♂ 17-VI-1971）天草町角山（1♀1♂ 28-VII-1974）

18. *Erigone prominens* BÖS. et STR. ノコギリヒザグモ

- 体長：2mm。
- 分布：北海道，本州，四国，九州。
- 産地：菊池渓谷（1♀ 24-V-1979）

19. *Gongylidioides* sp. ズキンヌカグモの一種

- 体長：♀2.8-3mm, ♂2.5-2.8mm。
- 分布：九州。
- 産地：姫戸町権現山（3♀ 8-VIII-1973）北向山（4♀2♂ 1-VI-1975）菊池渓谷
(1♀ 12-VII-1978, 2♀3♂ 24-V-1979)天草町角山(4♀2♂ 30-IV-
1979)五木村下梶原（3♀1♂ 4-V-1981）砥用町早楠（1♀1♂ 5-V-
1982）五木村中村（1♀1♂ 30-IV-1984）五木村内谷（5♀2♂ 2-VI-1984）
泉村樅木（3♂ 4-V-1985）泉村水上越（2♀2♂ 5-V-1985）五木村掛
橋（6♀2♂ 6-V-1985）山鹿市小原（1♀ 24-IV-1986）
- *G. cuculatus* OI ズキンヌカグモとは別種，新種候補。

20. *Micrargus acutitegulatus* OI ホソテゴマグモ

- 体長：2-2.2mm。
- 分布：本州，九州。
- 産地：牛深市権現山（1♀ 23-VI-1959）阿蘇町構口のY字穴（1♂ 6-VII-1981）

菊池渓谷（1♀ 18-VII-1981）五木村下梶原（1♀ 1♂ 16-I-1983）球磨村
高沢（2♀ 10-IV-1985, 田辺氏採）

○九州では、ほかに大分県（1982, 菊屋）からの記録がある。

21. *Strandella quadrimaculata* (UYEMURA) ヨツボシサラグモ

○体長：3-3.5mm。

○分布：北海道，本州，四国，九州。

○産地：山江村山口（1♀ 19-VI-1977）菊池渓谷（3♂ 24-V-1979）五木村下梶原
(1♀ 3-VIII-1980)

22. *Strandella yaginuma* H. SAITO ヒメヨツボシサラグモ

○体長：2-3.5mm。

○分布：本州，四国，九州。

○産地：五木村平沢津（1♀ 12-VI-1982）菊池渓谷（1♀ 21-IX-1982）

○九州では、ほかに宮崎県エビノ（1967, 浜田），大分県（1982, 菊屋）から記録がある。

Linyphiine サラグモ亜科

23. *Ostearius melanopygus* (O. P. CAMBRIDGE) スソグロサラグモ

○体長：2.3-2.5mm。

○分布：北海道，本州，四国，九州，南西諸島。

○産地：三角町新地の穴（7♀ 4♂ 14-V-1972）

24. *Syedra oii* H. SAITO オオイオリヒメグモ

○体長：1.6mm。

○分布：本州，九州。

○産地：五木村掛橋（1♀ 14-VII-1985）

○九州新記録種。

25. *Meioneta oblique* OI ナナメケシグモ

○体長：1.8-2.2mm。

○分布：本州，九州。

○産地：水俣市田子ノ須（1♀ 5-VII-1970）苓北町富岡（1♂ 14-VII-1981, 1♀ 5-

VI-1985) 松島町合津 (1♀ 25-V-1983, 1♀ 9-VI-1985)

○九州新記録種。

26. *Meioneta unguis* OI ツメケシグモ

○体長：1.5-2mm。

○分布：北海道，本州，九州。

○産地：山鹿市小原 (1♀ 12-VII-1983)

○九州新記録種。

27. *Meioneta* sp. ケシグモの1種。

○体長：1.6mm。

○分布：九州。

○産地：菊池渓谷 (1♀ 24-V-1979) 泉村雁俣山 (1♀ 1♂ 5-V-1982) 泉村山大切 (1♀ 1♂ 5-VIII-1984)

○*M. pentagona* OI ゴカクケシグモ近似種，新種候補。

28. *Centromerus higoensis* H. SAITO ヒゴマルサラグモ

○体長：2.3-2.6mm。

○分布：九州。

○産地：北向山 (1♀ 22-V-1973) 五木村内谷 (1♀ 2-VI-1981, 4♀ 2♂ 9-X-1983) 五木村下梶原 (2♀ 23-XI-1981, 1♀ 1♂ 2-V-1982) 姫戸町権現山 (2♀ 6-IV-1985, 田辺氏採) 市房山 (1♀ 1♂ 27-XI-1985, 田辺氏採)

○1984年，斎藤により新種として発表されたクモ。熊本県のほかに大分県三重町 (1978, 菊屋氏採) からの記録がある。

29. *Bathyphantes tateyamaensis* (OI) タテヤマテナガグモ

○体長：2-2.2mm。

○分布：本州，小笠原，九州。

○産地：五木村下梶原 (1♂ 3-VIII-1980)

○九州新記録種。

30. *Cresmatoneta* sp. アリサラグモの1種

- 体長：2.5mm。
- 分布：本州，四国，九州。
- 産地：北向山（3♀ 2♂ 3-IX-1972）
長い間、*C. mutinensis* (CANESTRIN) アリサラグモとされて来た日本の種は、真正の*C. mutinensis* とは異なるものである。筆者の一人斎藤は、Muséum National d'Histoire Naturelleに保管されたSIMONのコレクション中よりイタリア産の*C. mutinensis* を調べた結果、日本の*Cresmatoneta* 属の1種を新種として目下記載準備中である。

31. *Solenysa melloteei* SIMON アリマネグモ

- 体長：1.3-2mm。
- 分布：本州，四国，九州。
- 産地：菊池市中山（3♀ 2♂ 10-X-1977）菊池渓谷（1♀ 8-X-1978）五木村下梶原（1♀ 1♂ 27-IX-1981）五木村平沢津（1♀ 12-VI-1982）坂本村片岩（1♀ 9-IV-1985, 田辺氏採）泉村樅木（1♀ 4-VIII-1985）市房山（1♂ 27-X-1985, 田辺氏採）牛深市権現山（1♀ 27-IX-1986）苓北町富岡（1♀ 28-IX-1986）

32. *Labulla contorritipes* (KARSCH) アシヨレグモ

- 体長：♀5.5-7.5mm, ♂5-6mm。
- 分布：北海道，本州，四国，九州。
- 産地：五和町御領（1♀ 8-VII-1958）北向山（1♀ 23-IX-1972）菊池渓谷（8-X-1978, 西川喜朗氏採）

33. *Arcuphanes hamadai* OI ハマダヤミサラグモ

- 体長：♀2-2.5mm, ♂2.5-2.7mm。
- 分布：九州。
- 産地：牛深市権現山（1♀ 1♂ 9-VIII-1970）天草町角山（1♀ 23-VIII-1973）北向山（1♀ 28-IV-1974）八代市坂谷の穴（1♀ 11-VI-1977）五木村平沢津（1♀ 7-VIII-1982）五木村内谷洞（1♀ 1♂ 10-VII-1983, 2♂ 2-VI-1984）五木村中村（1♂ 30-IV-1984）泉村山大切（2♀ 1♂ 5-VIII-1984）五木村飯干（1♂ 15-IX-1985）老岳（2♀ 18-V-1986）

34. *Arcuphanes* sp. ヤミサラグモの1種

- 体長：2-2.5mm。
- 分布：九州。
- 産地：菊池渓谷天狗岩の穴（1♀ 24-V-1979, 2♀ 18-VII-1981）
○新種候補、ほかに福岡県（1か所）、大分県（4か所）、宮崎県（3か所）の洞窟からも記録している。

35. *Linyphia angulifera* SCHENKEL ハンモックサラグモ

- 体長：3-4mm。
- 分布：北海道、本州、四国、九州。
- 産地：本渡市染岳（1♀ 27-VII-1965, 1♀ 29-IV-1979）菊池渓谷（1♀ 1♂ 24-IX-1981）五木村平沢津（1♀ 8-VIII-1982）五木村下梶原（1♀ 15-V-1983）

36. *Linyphia bronigersmai* (HELDINGEN) チビサラグモ

- 体長：♀ 3-4.5mm, ♂ 4-5mm。
- 分布：本州、四国、九州。
- 産地：御所浦町（1♀ 6-IX-1970）北向山（1♀ 8-X-1972）五木村下梶原（1♀ 4-V-1981）菊池渓谷（3♀ 24-IX-1981）泉村樅木（1♂ 4-V-1985）

37. *Linyphia fusca* (OI) クスミサラグモ

- 体長：3-5mm。
- 分布：本州、四国、九州。
- 産地：泉村樅木（4♀ 4-V-1958）

38. *Linyphia herbosa* OI シバサラグモ

- 体長：4-5mm。
- 分布：本州、四国、九州。
- 産地：泉村山犬切（1♀ 4-VIII-1985）老岳（2♀ 18-V-1986）北向山（2♀ 1-VI-1986）

39. *Linyphia japonica* OI ツリサラグモ

- 体長：3—4 mm。
- 分布：本州，四国，九州。
- 産地：泉村樅木（1♀ 4-V-1958）北向山（1♀ 1♂ 22-V-1973, 1♀ 1♂ 1-VI-1975）五木村平沢津（1♀ 1♂ 12-VI-1982）

40. *Linyphia limbatinella* Bös. et STR. フタスジサラグモ

- 体長：4—5 mm。
- 分布：本州，四国，九州。
- 産地：菊池渓谷（2♀ 1♂ 13-X-1982）五木村中村（1♀ 30-IV-1984）

41. *Linyphia longipedella* Bös. et STR. アシナガサラグモ

- 体長：4.5—5.5 mm。
- 分布：北海道，本州，四国，九州。
- 産地：熊本市金峰山（3♀ 13-VII-1958）牛深市権現山（1♀ 28-VI-1959）染岳（1♀ 27-VII-1965）新和町大多尾（1♀ 27-VII-1971）五木村入鴨（1♀ 21-IX-1980）五木村下梶原（1♂ 3-VIII-1980, 1♀ 1♂ 7-VIII-1982）菊池渓谷（2♀ 1♂ 24-IX-1981）球磨村高沢（1♀ 2-VIII-1981）

42. *Linyphia nigripectoris* (Ol) ムネグロサラグモ

- 体長：3—4 mm。
- 分布：本州，四国，九州，南西諸島。
- 産地：角山（2♀ 28-VII-1974）

43. *Linyphia oidedicata* (HELDINGEN) ヘリジロサラグモ

- 体長：4—5 mm。
- 分布：北海道，本州，四国，九州。
- 産地：角山（1♀ 26-XI-1961）牛深市桑島（1♀ 17-V-1964）五木村頭地（1♂ 12-VI-1984）

44. *Linyphia radiata* WALCK シロブチサラグモ

- 体長：5—7 mm。
- 分布：北海道，本州，四国，九州。

○産地：泉村樅木（1♂ 4-V-1959）牛深市権現山（1♀ 23-VI-1959）南小国町（1♀ 5-VIII-1966）五木村中村（2♀ 3♂ 30-IV-1980）五木村頭地（1♂ 2-VI-1984）五木村内谷（1♀ 12-VIII-1984）

45. *Linyphia yunohamensis* BöS. et STR. ユノハマサラグモ

○体長：5-7mm。

○分布：本州、四国、九州。

○産地：阿蘇町大観望（2♀ 20-IV-1958）角山（1♀ 26-XI-1961）牛深市戸島（1♀ 17-VI-1971）牛深市権現山（1♀ 3-VIII-1973）菊池渓谷（1♀ 24-V-1979）五木村中村（1♀ 30-IV-1984）泉村水上越（1♂ 5-V-1985）

参考文献

- 入江照雄, 1978. 南九州の洞窟産真正蜘蛛類(I). *Heptathela*, 1(1): 17-32.
——— 1981. 九州の洞窟産真正蜘蛛類(IV). *Heptathela*, 2(1): 30-37.
——— 1982. 九州の洞窟産真正蜘蛛類(V). *Heptathela*, 2(2): 51-61.
——— 1985. 天草の真正クモ類. *Calanus*, (9): 1-20.
———・西川喜朗, 1982. 菊池渓谷のクモ. 菊池渓谷の動物. 熊本洞穴研究会, pp.179-185.
菊屋奈良義, 1985. 大分県下の真正クモ類のFaunaについて(1), 小林晶教授退官記念論文集,
pp.41-108.
木庭 奏, 1958. 熊本県で見られるクモ(1). *Atypus*, (15): 3-10.
——— 1959. 熊本県で見られるクモ(2). *Atypus*, (19): 3-9.
大井良次, 1960. 京大瀬戸臨海実験附近に産する海浜性の蜘蛛について. *Acta arachnol.*, 17:
5-8.
OI, R., 1960. Linyphiid Spiders of Japan. *Jour. Inst. Paly. Osaka City Univ.*, D-11: 137
-244.
——— 1964. A Supplementary Notes on Linyphiid Spiders of Japan. *J. Biol. Osaka
Univ.*, 15: 23-30.
——— 1980. New Linyphiid Spiders of Japan I (Linyphiinae). *E. H. Fift. Anni. Baika
Women's Coll.*, pp. 325-341.
小野勇一他, 1975. 菊池渓谷道路周辺の昆虫・クモ類の調査。道路建設に伴う森林伐採の生態
系に与える影響に関する研究報告書, pp.167-188.
MERRETT, P., LOCKET, G. H. & A. F. MILLIDGE, 1985. A check list of British spiders. *Bull.*

Br. arachnol. Soc., 6(9) : 381-403.

MILLIDGE,A. F., 1977. The conformation of the male palpal organs of Linyphiid spiders, and its application to the taxonomic and phylogenetic analysis of the family (Araneae : Linyphiidae). *Bull. Br. arach. Soc.*, 4 : 1-50.

斎藤 博, 1979. 栃木県産サラ・コサラグモに就いて(II). インセクト, 30(2) : 79-83.

SAITO,H., 1982. Notes on Japanese Linyphiidae I. *Acta arachnol.*, 26 : 17-26.

斎藤 博, 1982. 北海道のサラグモ (Linyphiidae) について. *Kishidaia*, (49) : 8-21.

_____ 1982. 小笠原土壤性サラグモ・コサラグモ. *Edaphologia*, (25, 26) : 33-39.

_____ 1983. 土壤性サラグモ 1 新種 (*Syedra*) の記載. *Edaphologia*, (29) : 13-16.

_____ 1983. 日本産 *Gnathonarium* 属 (サラグモ科) の種について. *Atypus*, (83) : 3-6.

_____ 1984. 九州および関東産土壤性サラグモ亜科 4 新種の記載. *Edaphologia*, (31) : 1-8.

_____・高橋米夫・相良淳一, 1979. 青森県産の数種の蜘蛛に就いて. *Atypus*, (75) : 7-15.

WIEHLE, H., 1950. Spinnentiere oder Arachnoidea (Araneae). XI: Micryphantidae - Zwermspinnen. *Tierwelt Dtsch.*, (47) : 1-620.

八木沼健夫, 1977. 日本産真正蜘蛛類目録. *Acta arachnol.*, (sp. no.) : 367-406.

_____ 1986. 原色日本クモ類図鑑. pp. 1-305. 保育社.

_____・西川喜朗, 1973. 富士山の蜘蛛. 表富士大沢砂防工事関係地域動物調査報告, pp.120-145.

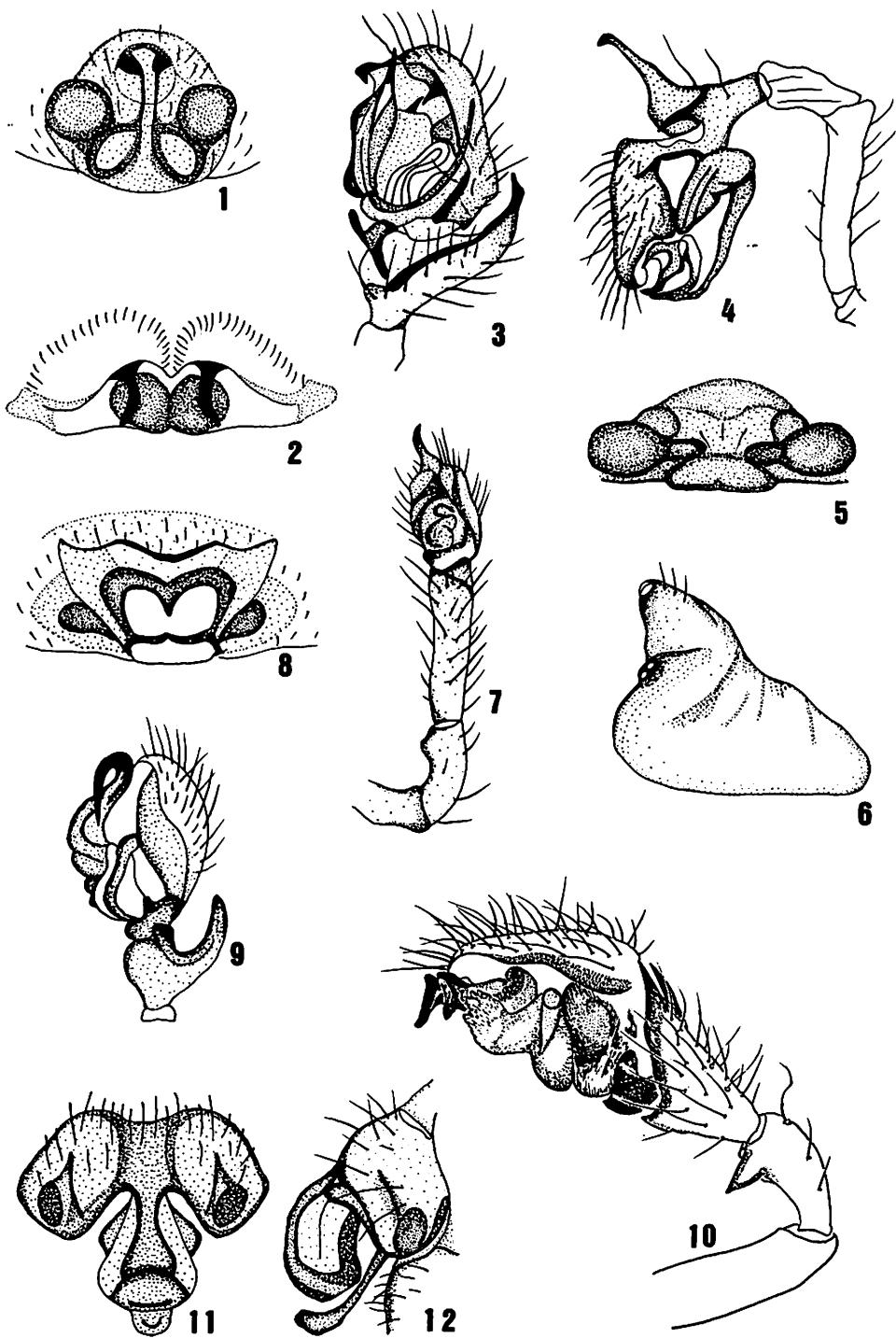


Fig. 2

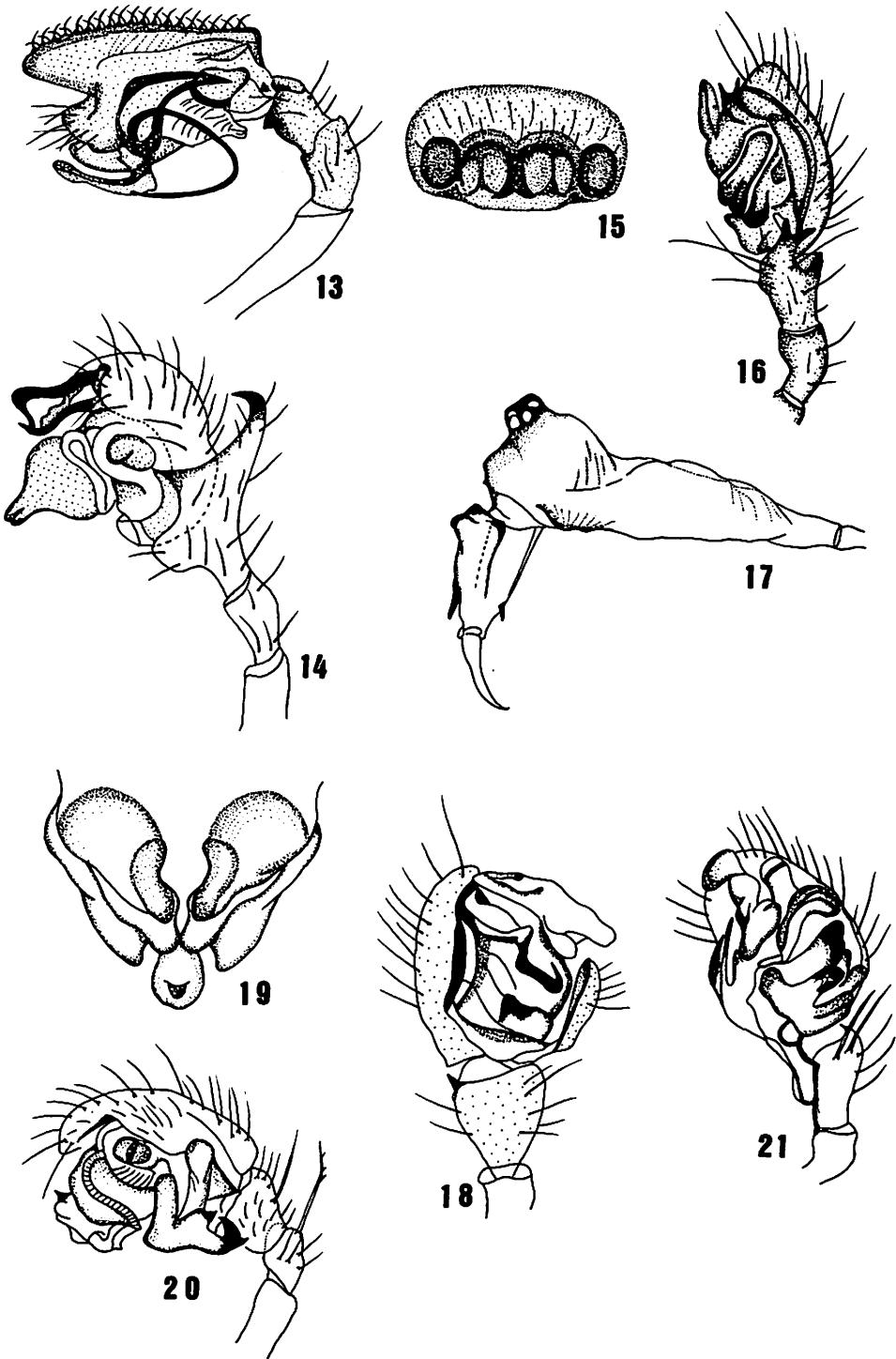


Fig. 3

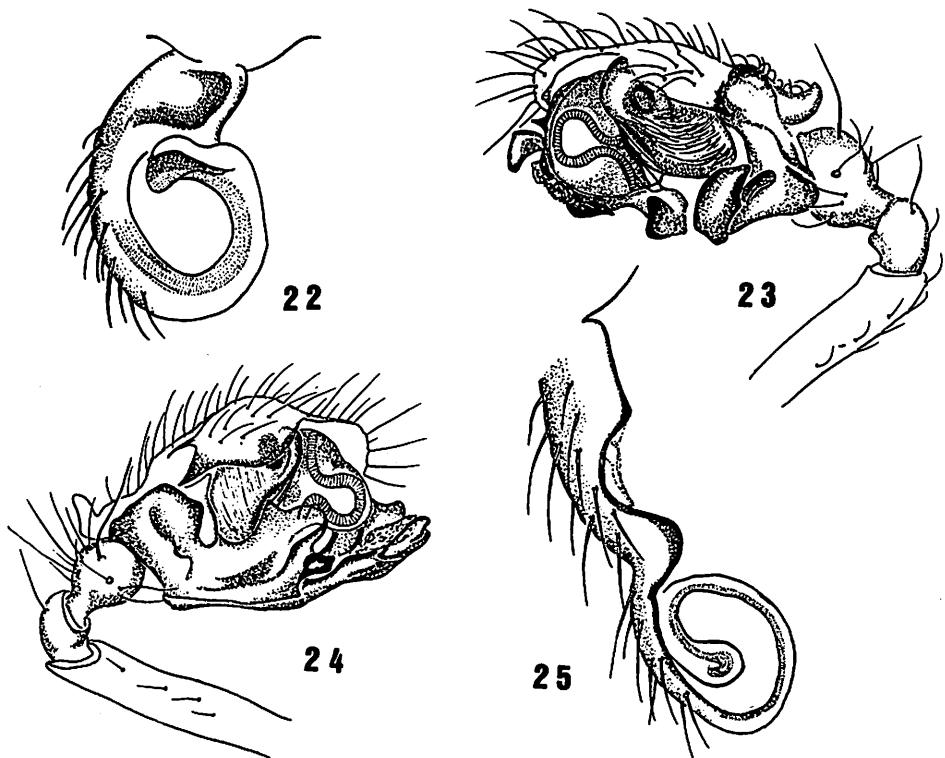


Fig. 4

Fig. 2

1. *Oia imadatei* ; Epigynum.
3. Same species ; Male palp.
5. Same species ; Epigynum.
7. *Tmeticus japonicus* ; Male palp.
9. Same species ; Male palp.
11. *Meioneta oblipue* ; Epigynum.

2. *Ummeliata tokyoensis* ; Epigynum.
4. *Dichornue hikosanensis* ; Male palp.
6. Same species ; Carapace of male from the side.
8. *Ceratinopsis setoensis* ; Epigynum.
10. *Erigonidium torquipalpis* ; Male palp.
12. Same species ; Epigynum from the side.

Fig. 3

13. *Nematogmus sanguinolentus* ; Male palp.
15. *Ostearius melanopygius* ; Epigynum.
17. *Cresmatoneta* sp. ; Carapace of male from the side.
19. *Centromerus higoensis* ; Epigynum.
21. *Solenysa melloteei* ; Male palp.

14. *Micrargus acutitegulatus* ; Male palp.
16. Same species ; Male palp.
18. Same species ; Male palp.
20. Same species ; Male palp.

Fig. 4

22. *Arcuphanthes hamadai* ; Epigynum from the side.
24. *Arcuphanthes* sp. ; Male palp.

23. Same species ; Male palp.
25. Same species ; Epigynum from the side.

会 誌 投 稿 規 定

1. 寄稿者は会員に限る。
2. 原稿の内容は、蝶形類に関するものなら、解説・記録等なんでもよい。ただし、エッセイ等は筆者の了解があれば、「会報」に掲載することもある。
3. 20×20字原稿用紙に、1マス1字で書くこと。ただし、欧文は2マス3字とする。
4. 学名は、赤でアンダーラインを引くこと。
5. 図は墨入れをし、そのまま印刷ができるよう完全なものに仕上げること。
6. 論文の場合は、欧文タイトル、氏名、所属（住所）をつけること。
7. 写真版等特殊技術を要する印刷費用は個人負担とする。
8. 原稿は図表を含め、出来上がり6頁以内とする。それ以上の長さの原稿については、分載するか、もしくは超過分の費用を個人負担とする。
9. 文献表は、次の例に準じて作成すること。（例）大熊千代子, 1957. トリノフンダマシの造網, *Atypus*, (13): 3—4.
10. 別刷は個人負担、必要部数を原稿第1頁に赤で記入のこと。

（原稿の送付先）

〒861-05 熊本県山鹿市小原 熊本県立教育センター・生物研究室内 入江照雄

会 報 投 稿 規 定

速報的記事、エッセイ、自己紹介、ニュース、日頃の所感、会に対する注文、採集会の案内等なんでも結構です。また研究の疑問を寄せあい、それについてみんなで考えるなど、情報交換の場として役立てていただきたく思います。原稿は原則として約2,000字以内とします。どうか軽い気持ちで投稿お願いいたします。

（原稿の送付先）

〒812 福岡市東区箱崎 九州大学農学部昆虫学教室内 九州クモの会

編 集 後 記

- HEPTATHELA, Vol. 3, NO. 1 の発行以来, 3年の冬眠も終わり, やっと NO. 2 をお届けすることになりました。
- 昨年11月, 斎藤会員より早々に原稿をお送りいただきながら, その後の追加投稿がなく, そのままになっていました。大変申し訳なく思っています。
- 早く印刷にかかりたいと思いながら, 年明けての追加投稿がなく, 編集者も責任を感じ, やむなく載せる結果になってしまいました。
- 短報でも結構です。会員諸氏の気楽な投稿をお待ちしています。とくに, 九州内の会員の投稿を期待しています。

HEPTATHELA VOL. 3, NO. 2

1987. 2. 25発行

編集者 入江照雄

発行者 吉倉真

発行所 九州クモの会

〒812 福岡市東区箱崎

九州大学農学部昆虫教室内

印刷所 下田印刷熊本支店 (096) 362-7171

熊本市南熊本3丁目1-3